

# 新しい製造環境における標準原価管理の実証分析

## The Empirical Study of Japanese Standard Cost Management in the New Manufacturing Environment

李 健 泳  
Gunyung LEE

### 序言

本研究は、文献研究に基づいて仮説を立てて、上場企業500社に質問表を送り、104社から回答を得て、統計分析により検証したものである。

### 研究成果の概要

今日の標準原価による原価管理は、FA・CIMおよび製品の多様化・短寿命化などの製造環境の変化に伴って、その役割が低下していると指摘されている。その指摘は次のように仮説としてまとめられる。

仮説1：自動化が進むにつれて、標準原価による能率管理の役割は低下している。

仮説2：多品種少量生産により、原価標準の能率設定は困難である。

仮説3：製品ライフ・サイクルの短縮化により、原価標準の能率設定は困難である。

しかし、一方では、行き過ぎた自動化に対する反省とともに、現場の従業員のモチベーションを重視する人間本位の生産環境への移行も多く見られている。さらに、日本企業における今日の標準原価管理は、従来の標準原価管理とは違い、標準原価管理が原価維持と原価改善に分けられ使われている。したがって、今日の標準原価管理は原価改善の側面を考慮して分析される必要がある。

本研究では、タイトネス管理を中心に、企業実務で使われている標準の水準とその用語の関係を検証し、企業実務での標準のとらえ方を確認するとともに、製造環境の変化による標準原価の役割の低下論を検証している。検証の結果、製造環境変化による標準原価の役割低下論において、自動化による標準原価の役割低下論はある程度は認められたが、その他の役割低下論は支持されなかった。一方、標準原価と予算原価の関係では、材料消費量および操業度においては、有意な差は得られなかったが、作業時間に関しては有意な差が得られた。

この研究の成果は以下のような機関で発表及び掲載された。

### 研究発表

日本原価計算研究会関西西部会報告（平成10年1月23日）

論題：標準原価管理における製造環境変化の影響－実態調査による検証－

論文掲載出版物

1. 李健泳、新しい製造環境における標準原価管理の実証分析、管理会計学、1998年第6巻第2号、pp.93-113,日本管理会計学会。
2. 李健泳、第11章 標準原価管理の実証分析、日本のコストマネジメント、門田安弘・浜田和樹・李健泳 編著、同文館、1999年5月10日、pp.156-177。